

# 遷喬まちづくり通信

第19号  
平成29年12月  
遷喬地区  
まちづくり協議会



## まち中歩き『たけのこ探り』

森田 章文

まち中歩きの第2回目として、4月29日に鳥取市布勢にある「とっとり出合いの森」内の竹林で、たけのこの採取を行いました。とっとり出合いの森内の竹林は、届出書きえ提出すれば、誰でもたけのこ採りができることから、人気の行楽スポットになっていきます。そのため、採取場所の選定にかかわった手前、もう掘り尽くされているんじゃないかと、前日まで内心はビクビクものでした。案の定、当日は好天に恵まれたせいもあり、採取を予定している竹林に行ってみると、多くの人たちの声が聞こえ、竹林脇の道路には、

たけのこの山が、あちこちに出ていました。これを見て、「こりゃーえらいことになった。1本も採れない人がでてくるかもしれない。今日はたけのこ探しのサポートに専念しよう」と思ったものでした。しかし、参加者の中には、イノシシ並の嗅覚の持ち主もおられ、終わって見れば、多い人で10本以上、少ない人でも1、2本の成果があり、私の心配は杞憂に終わりました。

皆さん楽しそうに作業しておられる姿や、うれしそうにたけのこを持って帰られる姿を見て、この企画を実施して本当に良かったなと思いました。



## 大乗寺を訪ねて

瀧本 康子

初秋の景色を眺めながら、バスに揺られて最初の目的地鉄橋に。（平成22年に架設）

この鉄橋は、過去に強風におおられた回送列車が転落し、尊い命を失う悲惨な事故の経緯を踏まえて、透明なアクリル製の防風壁を備えたコンクリート製の新設部橋梁が新設され、現在も交通の要所である「空の駅」の役割りを果たし、日本一の高さを誇るかのごとく天空にそび立つ様は圧巻そのものです。

そして大乗寺へ、この大乗寺は石垣を有し石段を上ると山門があり、その山門をくぐり抜けると楠木の太木、樹齢からも歴史ある古刹の風格を物語っている。

この寺は、天平17年（745年）に開山されて江戸中期（18世紀末）に再建され、応挙寺としても久しい。

仏間には「十一面観音菩薩像（国重文）」が安置されている。仏様は物静かな佇まいで、慈愛に満ちたお顔立ちに心が和み穏やかな気持ちになりました。

また円山応挙とその一門の筆による障壁画は、西欧の遠近法を駆使して描いた襖絵（国重文）が配置されている。とくに郭子儀図の増長天と童の構図は、角度を変えて見ても視線が常に追ってくる手法で描かれ彩色も施されている。優美に彩色された孔雀図と水墨画の古い松は応挙自らが描いたもので、今でも円山応挙の画法が美術的に高く評価される由縁でもあるようです。

大乗寺を後にし、楽しみの昼食は「かに」づくし？の定食に舌づつみで満腹。

昼食後は一路湯村温泉へ。ここでは温泉玉子と足湯を楽しむ。ほっこりと満足感、バス停まで徒歩。色づき始めた紅葉。天候にも恵まれた初秋の一日を満喫しました。



大乗寺（応挙寺）